

ねて築く 火災ゼロ

春の全国火災予防運動 3月1日～7日

冬から春にかけては空気が非常に乾燥し、強い風が吹く日が多いものです。さらに、暖房器具など火を使うことも多いため、一年のうちで最も火災が多い時期です。

日ごろから忘れがちな火の恐ろしさを改めて思い起こし、火災を出さないためには何をすれば良いのかを、「春の全国火災予防運動」を迎えて、みんな考えてみましょう。今年度の全国統一防火標語は、「点検を重ねて築く火災ゼロ」です。

最大の被害者は 65歳以上のお年寄り

平成3年の一年間に、全国で54、879件の火災が発生し、1、817人が亡くなりました。一日当たりおよそ5人が、火災の犠牲性になっていくことになります。特に、冬から春先にかけて火災で亡くなる人が多いのが特徴です。平成3年中をみても、1、4ヶ月と12月の5か月間で、火災による総死者数の56%に当たる1、018人の方が亡くなりました。また、火災による損害も1、604億1、975万円で、火災一件当たり換算すると、294万円の損失額になります。亡くなる人が最も多い火災

は住宅火災で、建物の火災の死者のうち、90%が住宅火災の死者なのです。国内で起きた全火災の約3割は一般住宅火災で起きています。こうした火災の最大の被害者が、65歳以上のお年寄りです。春先の火災は、空気が乾燥して強い強い風が吹いていたりして、火の回りが早いため、逃げ遅れることが少なくないからです。まして乳幼児やお年寄り、火をみて怖がったり、体が思うように動かなかつたりして、悲惨な結果になることがあります。



深夜から早朝にかけての火災が多い

ちが緩みがちになっていませんか。火災から家が守るためには、「これだけ備えれば」「これだけ注意していればもう大丈夫」というものはありません。毎日の心がけと行動を継続させていくことが、何よりも大切です。

出火の原因では、こんろによる火災が6、156件、なかでも普及率の高いガスこんろが最も多いのです。次いで、たばこ、防火、たき火の順となっています。寒い時期は、暖をとるための火気の使用が増えます。器具の火の取り扱いは、十分注意しましょう。火災発生の時間帯で多いのは、深夜から早朝にかけてです。特に多いのが午前1時台の火災で、平成3年中には101人が亡くなっています。寝入りばなや熟睡している時間帯に当たるため、亡くなる人が多いといわれています。



天ぷら鍋を使った消火訓練 (9月防災訓練より)